

着物リサイクル 毎月25日号掲載

# 春夏秋冬

第194回

## 成人式が変わる

20才で変更の予定はないようだ。何か大きく変わるかと言えば、18才の男性が犯罪を犯した時、従来の「少年A」から実名での表記になり、成人としての対応になる。

## 振袖は着物市場の最大アイテム

先日、自民党が成人年齢を18才へ変更する法案を提出する事を決めた。この法案が可決される事は確実であるので、非常に近い将来日本の成人は20才から18才に引き下げられる。

選挙権はすでに前の参議院選挙から、18才の選挙権が認められるようになった。成人年齢が引き下げられたとしても、飲酒と喫煙は万人が振袖を着て成人式に参加する。



成人式の様子。振袖市場規模は推定640億円

この成人式の振袖市場規模は推定640億円、着物市場に占める割合は約22・6%を占める。着

## 市場本格参入への大チャンス

## 成人年齢変更で振袖特需！

アイテムである。この内販売は約400億円。イメージで言うならば平均40万円の振袖セットが10万人に売れている。またレンタルは約240億円。イメージでは平均16万円の振袖セットを15万人に貸している。そして残る11万人は「ママ振」と言われるお母様の振袖である。

に、現在でも自治体によつては成人式を帰省の多い8月に開催しているところもある。結果としては成人式を18才にするのか20才で従来通りするのかの判断は、自治体に委ねられる可能性は高い。それにより成人式を18才に変更する自治体が多くなる事が予想される。

## 成人式の2つの変更方法

この一大市場が、成人式年齢が18才に変われば大変な事になる。今は大学2年生か社会人2年生の1月に成人式があるわけだが、これが高校3年生の1月に変わるのである。そうなるとう多くの対象者は大学受験の直前で、落ち着いて振袖を選んだり、成人式に出席したりできないかもしれない。

そこで着物業界の一部では、成人が18才になっても成人式は20才で継続してくれる様、署名運動を推進している。しかし私の考えは、成人が18才になれば、成人式も18才の方が自然だと思っている。成人を18才に決める事も、成人の日を1月の第2月曜に決めているもの、共にお国だし、成人式を開催している主体は地方自治体である。それゆえ

に過ぎない。仮に浴衣と同じシェアを獲得できれば、約25億円と、現在の10倍になる。つまり伸び代が大きいという事である。同時に現在のシェアが低いので、振袖市場に大変な変化が起きても失うものはない。

我々は来るべき振袖市場の大変な変化に向け、18才のお嬢様とその両親というリアルターゲットに向けて、一番買いやすい借りやすいビジネスモデルの確立に、全身全霊を傾ければ良いわけである。

具体的には、成人式の振袖を買おうか、借りようか、母親の振袖で間に合わせようか迷っているいわゆる「無党派層」の琴線に最も触れるアプローチを店舗とネットと紙媒体をミックスして強力に訴求出来る事にかかっていると確信している。

来るべき振袖特需をたんす屋の次の大きなチャンスにしていきたいと考えられているが、いかがだろうか。



東京山喜 (店名・たんす屋) 中村 健一 社長

1954年9月京生まれ。77年カリフォルニア州立大学ロングビーチ校留学、79年慶応義塾大学卒業。同年東京山喜入社、87年取締役京都支店長、91年常務、93年社長に就任、今に至る。